

トヨタカローラ中京

KUO
GROUP



SUPER FORMULA LIGHTS RACE REPORT

Rd.4/Rd.5 @OKAYAMA International Circuit

TEAM
TOM'S

9月26日 (土) / 来場者 2,000人

天候：曇り・ドライ / 気温：21-22℃ / 路面温度：24-24℃

8月に開幕した全日本スーパーフォーミュラライト選手権は、1ヶ月のインターバルをあけて舞台を岡山国際サーキットに移して第4戦、第5戦を迎えた。予選日、土曜日までは台風や低気圧の影響により不安定な天候、コースコンディションに悩まされたが、予選日は曇り、ドライコンディションで走行することができた。ポールポジション争いは36号車をドライブするカロラ中京Kuo TEAM TOM'Sの宮田莉朋と、今シーズンフル参戦の阪口晴南選手との僅差の一騎打ちとなった。そして宮田は、開幕イベントのツインリンクもてぎと同様に両レース決勝のポールポジションを獲得した。37号車をドライブする小高一斗は、ここ岡山においてはF4での経験はあるものの、スーパーフォーミュラライトでは初めての走行となった。その状況下で第4戦を3番手、第5戦を5番手のグリッドからスタートする。



- 30分間の予選中に記録されたベストタイムで第4戦。セカンドベストタイムによって第5戦の決勝スターティンググリッドが決定される。
- 予選は、曇り空の下開始された。コースコンディションはドライ。しかし、前日金曜の雨によって木曜日の練習走行とグリップの感触が異なる状況となっていた。
- 1セット目のニュータイヤを装着してコースイン、宮田1分21秒938。小高1分22秒755を記録。
- 一旦ピットに戻り、セッティングを変更し、2セット目のニュータイヤを装着。予選の残り時間9分を残してコースイン、タイヤのウォームアップを済ませて、アタックに入った。コースインして再び1分21秒台に入った宮田は、4周目に21秒430。5周目に21秒349（コースレコードタイム更新）を記録して両レースのポールポジションを獲得した。今季連続ポールポジション記録を5に更新している。
- 小高は、1セット目タイヤで4周目に21秒976で第4戦の3番手、6周目に22秒380で第5戦の5番手グリッドを得ている。
- 宮田は、共催のスーパーフォーミュラにも中嶋一貴に代わって出場する。

Driver	Car No.	Qualifying for 4	Qualifying for 5
宮田 莉朋	36	P1 1'21.349	P1 1'21.430
小高 一斗	37	P3 1'21.976	P5 1'22.380

9月26日 (土) / 来場者 2,000人

天候：曇り・ドライ / 気温：21-22℃ / 路面温度：24-24℃



宮田 莉朋

36号車ドライバー

ポールポジションを獲得できてホットしていますが、実はコンディションにセッティングが合っていないくて、かなり緊張した予選でした。1セット目から2セット目のタイヤを装着する間にセッティングを変えたのですが、コンディションに完璧にマッチしたとは言えない状態でした。木曜日にいろいろなセッティングにトライできたのですが、金曜日は、コンディションが大きく変わってしまい、そして予選日もまたコンディションが変わって、なんとか木曜日の感触に戻そうとして必死でした。ポールを獲得して、貴重な1ポイントも得られたので、スタートを決めてポジションをキープしてその後はファステストラップをマークしてフルマークで決勝を終えたいと思います。



小高 一斗

37号車ドライバー

このコースに対してこのマシンでの慣れの問題があって、セッティングをうまく進めることもできず、とても乗りづらい予選となってしまいました。練習走行でここだとしっくりとくるセッティングを出すことができて予選を迎えてしまいました。1セット目を終えて、ピットに戻りセッティングを変えてもらって、車高、フロントウイング、フロントのロールバーなどをもう少し曲がりやすい方向に変えてもらいました。それでもマシンの状況が劇的に変わったわけではなかったですね。この傾向は、前戦のもてぎでもあったものです。でもなんとか21秒台に入ることができたのですが、セカンドベストタイムは22秒台。その時にはタイヤのグリップが落ちてしまった状態でした。タイヤの内圧を少し高めにしておいたので、最後はリアタイヤの内圧が高くなりすぎてしまったようです。もてぎで最初のレースをスタートで大失敗した原因も分かったし、ここでのスタート練習は良かったので、チャンスはあると思います。



吉武 聡

エンジニア

宮田は、木曜日の時点でいろいろなセッティングを試して、状況に応じて対処できるように準備を進めてきました。いろいろなセッティング、またセッティングの引き出しを多くして、その時々コンディションに合わせられるものをトライしました。予選のコースコンディションは、木曜日、金曜日の状況とは異なるものだったので、1セット目のアタックの後にセッティングをコンディションに合わせて2セット目のタイヤを装着して再び送り出しました。いつものように2セット目でタイムアップしてくれました。小高に関しては、岡山のコースに関しての経験不足のハンディがあるので、木曜日にロングランをさせて、タイヤの使い方を勉強してもらって予選に臨みました。そして得た3番手グリッドはよしと判断していますが、もう一発が出せない。タイヤのグリップが下がってしまったのでしょうか。前戦のもてぎでは、スタートを失敗してしまっているのですが、練習では良いスタートが切れているので期待しています。



山田 淳

チーム監督

予想通り岡山をホームコースとしている阪口晴南選手とのポールポジション争いとなりました。1セット目のタイヤでのタイムアタックでは、宮田は阪口選手に先行されていましたが、宮田は2セット目のタイヤでタイムアップしてくるので、ポールポジションを獲得してくれるだろうと信じていました。セットアップの変更も効果があり、最後に21秒台を並べて叩き出して連続してポールを得てくれました。小高の第4戦の3番手獲得は、評価できます。彼は、このクラスのフォーミュラカーでこのコースを走行するのは初めてなので、その状況で宮田、阪口選手に続いて3番手は、彼の速さを示してくれました。しかし、まだその速さの持続性と各セクターのタイムをまとめあげる経験が足りないでしょう。それが身につけば、宮田と同等の速さを発揮してくれるでしょう。

9月26日 (土) / 来場者3,500人 天候：晴れ時々曇り・ドライ / 気温：28-26℃ / 路面温度：36-34℃

9月27日 (日) / 来場者4,800人 天候：晴れ時々曇り・ウエット / 気温：24-24℃ / 路面温度：31-34℃

岡山国際サーキットに舞台を移して行われた第4戦、第5戦。カローラ中京Kuo TEAM TOM'Sの36号車宮田莉朋は、第4戦においてポールポジションからスタートして終始ポジションをキープし、レース中のファステストラップタイムも記録して4勝目。第5戦では、ポールポジションからスタートしたが、出遅れて坂口晴南選手に先行を許しそのまま2位でゴール。しかし、最終ラップにファステストラップを記録した。37号車の小高一斗は、第4戦のスタート直後の1コーナーでイン側のマシンに押し出される格好でコースオフ、順位を下げてしまい7位フィニッシュ。第5戦では、1周目の多重接触に巻き込まれることなく順位をアップして3位表彰台を獲得した。



- 宮田は、第4戦のスタートで若干出遅れるが、ポジションをキープして首位を守った。そして2周目から2位以下を引き離す快走。
- 13周目に起きた接触アクシデントによってセーフティカーが16周目までコースイン。
- 12周終了時点で宮田は2位に約5秒の差をつけていたがセーフティカーの導入によってそのマージンは無くなってしまった。17周目からレース再開。リスタートを決めて、再びリードを奪い、最終18周目にファステストラップを記録して今季4勝目。ポールポジション1点、ファステストラップ1点。そして、優勝によってフルマーク12点を獲得。
- 第5戦、宮田のスタートが悪いわけではなかったが、2番手スタートの坂口晴南選手のスタートがそれを上回っていた。1コーナーまでに牽制したが、先行をされて2位へポジションダウン。
- 1周目に起きた多重クラッシュによってセーフティカーがコースイン。レース再開は5周目からとなり、阪口の背後0.5秒以内につけてパッシングのチャンスを伺ったが挽回ならず。最終ラップにファステストラップタイムを記録して意地を見せた。
- 小高は、第4戦の1コーナーでアウト側のライン走行中にイン側に入ってきたマシンと接触。一旦コースオフし、再びコースに戻るが、7位まで順位を下げてレースを終えた。
- 第5戦ではスタートも良く、1周目の多重クラッシュに巻き込まれることなく3位へ順位アップに成功。
- セーフティカーラン後の5周目からもポジションを守り、15周目にはセクター2の全体ベストタイムをマーク。自己ベストラップタイムでもトップ2に迫る速さを見せて、今季3度目の表彰台に立った。
- 第5戦を終了して宮田が56点でランキングトップ。小高は20点で3位につけている。

Driver	Car No.	Rd.4 / Fastest Lap	Rd.5 / Fastest Lap
宮田 莉朋	36	P1 1'22.439	P2 1'22.964
小高 一斗	37	P7 1'23.707	P3 1'23.085

9月26日 (土) / 来場者3,500人 天候：晴れ時々曇り・ドライ / 気温：28-26℃ / 路面温度：36-34℃

9月27日 (日) / 来場者4,800人 天候：晴れ時々曇り・ウエット / 気温：24-24℃ / 路面温度：31-34℃



宮田 莉朋

36号車ドライバー

第4戦のスタートは良くなかったですが、トップを守れてファステストも出せて勝てたというレースでしたけれど、コンディションが毎回違って、練習走行からセッティングが違う方向に行ってしまうと、苦労したレースではありました。第5戦は自分としては、悪いスタートを切ったという感じではなかったのですが、阪口選手の方が一枚上手でしたね。1コーナー手前で並ばれてしまい、抜かれてしまいました。マシンの調子も良くパフォーマンスとしては、前に出られたらもっとペースアップできたと思うのですが岡山は本当に抜けなくて、プレッシャーを与えながら追うのが精一杯でした。それでも絶対にファステストは取ろうと思って、最後に取りました。勝てなかったので一から出直しという気持ちで次戦の菅生には臨みます。もっとパフォーマンスは上げなくてはならないし、上げられると思うので、トムの速さをもっとアピールするために頑張ります。



小高 一斗

37号車ドライバー

第4戦のスタートで押し出されて順位を下げてしまったのですが、それ以降のレースペースが全然良くなかった。良いと思ってセッティングしたことが反対の方向になってしまっていて、全然ペースが良くなって大変でした。そこで第5戦では、もう一度原点に戻そう、オリジナルに戻そうと決めて臨みました。そこで、自分のダメなところがわかりました。スタートも決まり、ヘアピンの先で2台が絡んでいたシーンも見えていて、もらい事故になりそうだったけれど、そこをすり抜けることができて、順位を上げられたし、その後コーナリング中にダウンフォースが抜けないようなブレーキングを残してコーナーに入っていく走りもできて、ダウンフォースが抜けることが少なくなって、ペースも良かったので、3位表彰台に立てたのも良かったです。順位以上に収穫が多かった。これを次戦の菅生に生かしていきたいと思います。



吉武 聡

エンジニア

宮田は、前に出れば絶対に速いのはわかっているので、スタートから前に出てくれてリードを広げ、リスタートも決めて、ファステストもとってというレースでした。第5戦は見ての通りですが、晴南選手のスタートは良かったですが、同じようにスタートできていれば前に出られていたので、そこは課題ですね。ポールポジションからスタートしているので普通にスタートできれば問題ないですからね。年間何回かこのようなスタートをしてしまうので頑張ってください。小高は第4戦、接触で順位を落としましたが、マシンにダメージがなくて良かったです。そして第5戦に対しては、それまでセッティングに迷走していたので宮田と同じセットで出して、好タイムをマークしてくれました。しかしそれが持続しない。安定したペースで走ることが課題ですが、何かを掴んでくれたみたいなので、それをこれから披露して貰いたいです。



山田 淳

チーム監督

宮田はスーパーフォーミュラ (SF) とのダブルエントリーとなり、第4戦の前にSFの公式練習があったので感覚をライツに戻すためにグリッドへ向かう前の走行でプッシュさせた結果、タイヤの内圧が上がり、ゴムも路面に張り付いてしまってスタートダッシュが鈍ったようです。それでもトップをキープしてくれました。第5戦に関しては、スタートは悪くなかったですが、それ以上に晴南 (阪口) 君が良かったですね。そしてここ岡山はとてもパッシングが難しいので2位のままでした。小高に関しては、第4戦にコースオフもあり、その後は良いところがなかった。自分とセッティングが合わなかったことで葛藤しながら走っていたのだと思います。そして第5戦は宮田と同じセットに戻して、<今日はこれで走ってくれ>と送り出して、そこで得るもがあった結果としてラップタイムも良かった。確実に速さを持っているし、歯車が合えばもっと上に行けるドライバーなので、これからの期待しています。